厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベースの為のNCD長期予後入力システムの構築に関する研究

胆道癌診療のがん登録情報を応用した長期予後情報回収率の低下対策

研究分担者　藤田保健衛生大学　坂文種報徳會病院　消化器外 堀口明彦
研究協力者　藤田保健衛生大学　地域医療学　石原　慎

研究要旨
胆道癌登録は、1987 年胆道外科研究会の事業として開始された。2007 年より肝胆膵外科学会に事業が移管され 630 施設が参加し現在まで継続している。予後調査は 2 年に 1 度行っているが、その追跡率の低下が見られる。長期予後情報は、がん対策にとって重要な情報である。そこで、全国胆道癌登録から予後情報回収率を低下させる原因について分析した。2008 年から 2013 年に登録された症例を対象とし、予後情報は 2015 年に回収を行った。回収後の予後不明率をがん腫別および登録年別に解析した。
今回の解析結果で、各がん腫とも2011年より以前すなわち4年以上の期間が経過すると予後不明率の増加が見られた。全国胆道癌登録の予後調査は2年に1回であり、直近の2年の不明率は各がん腫とも10%前後であるが、調査時より4年以前の不明率は30%前後で推移し、それ以上の増加は認めない。この原因として、大部分は登録施設が予後登録をしていなかった。この問題を解決するには戸籍情報と関連した予後追跡システムが、解決すべき法的問題もあるが、国民の利益のための最良と考える。

A．研究目的

胆道癌登録は、1987 年胆道外科研究会の事業として開始された。2007 年より肝胆膵外科学会に事業が移管され 630 施設が参加し現在まで継続している。胆道癌取扱い規約は、1981 年に第 1 版が発行された。その後、3 回の小改訂と 2 回の大改訂が行われている。この事業は会員の尊い社会的貢献の精神で成り立っている。予後調査は 2 年に 1 度行っているが、その追跡率の低下が見られる。長期予後情報は、がん対策にとって重要な情報である。そこで、全国胆道癌登録から予後情報回収率を低下させる原因について分析した。

B．研究方法

現行の胆道癌取扱い規約第 6 版に変換可能な 2008 年から 2013 年に登録された症例を対象とした。予後情報は 2015 年に回収を行った。回収後の予後不明率をがん腫別および登録年別に解析した。

C．研究結果

胆管癌

総症例数は15,039例であった。登録年別症例数と予後不明率はそれぞれ、2008年1,374例、26.1%、2009年1,404例、28.6%、2010年1,742例、26.1%、2011年2,088例、29.4%、2012年1,957例、16.4%、2013年1,974例9.9%であった。

２．胆嚢癌

総症例数は6,475例であった。登録年別症例数と予後不明率はそれぞれ、2008年835例、34.0%、2009年834例、30.5%、2010年1,093例、30.6%、2011年1,314例、31.5%、2012年1,272例、16.8%、2013年1,127例12.5%であった。

３．十二指腸乳頭部癌

総症例数は3,425例であった。登録年別症例数と予後不明率はそれぞれ、2008年451例、37.0%、2009年392例、39.5%、2010年546例、37.2%、2011年595例、30.1%、2012年667例、14.4%、2013年594例8.6%であった。

D．考察

今回の解析結果で、各がん腫とも2011年より以前すなわち4年以上の期間が経過すると予後不明率の増加が見られた。全国胆道癌登録の予後調査は2年に1回であり直近の2年の不明率は各がん腫とも10%前後であるが、調査時より4年以前の不明率は30%前後で推移し、それ以上の増加は認めない。この原因として、患者が通院をしなくなった場合、登録施設が予後登録をしない場合があるが、大部分は登録施設が予後登録をしていなかった。これは、National Clinical Databaseを含むどのような登録システムでも可能性がある。

この問題を解決するには、一つには予後登録に関するインセンティブを設けることが考えられるが、新専門医制度となった今、学会の施設認定などは使用できない可能性が高い。そのため、漏れなく予後情報を取得するのには、戸籍情報と関連した予後追跡システムが、解決すべき法的問題もあるが、国民の利益のための最良と考える。

E．結論

胆道癌登録の予後調査回収率を上げるには、戸籍情報と関連した予後追跡システムの構築が必要であり、今後の課題として取り組む必要がある。

F．健康危険情報

G．研究発表

1.　論文発表

堀口明彦、伊東昌広、浅野之夫、荒川　敏、伊藤良太郎、伊勢谷昌志、清水謙太郎、大城友有子、安岡宏展、河合永季　膵頭部血管の解剖　胆と膵　2017；38：35-39.

2.　学会発表

堀口明彦　乳頭部腫瘍の診断と治療（日本胆道学会認定指導医養成講座 8
）　第53回胆道学会2017.9.28-29：山形

H．知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得　なし
2. 実用新案登録　なし
3. その他　なし